

No.28 平成19年10月19日

摂
南
土木会

摂南大学 土木会会報

発行所 摂南大学土木会
〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8
摂南大学都市環境システム工学教室内

TEL.072-839-9117
FAX.072-838-6599

摂土会総会を12月1日に開催!!

理事長特別寄稿

「技術者教育とこれからの学園」

CONTENTS

■会長の挨拶

森 俊介 (会長)

■学科長の挨拶

澤井 健二 (都市環境システム工学科 教授)

■故 執行龍騎君を偲んで

金本 拓也 (都市環境システム工学科1年生)

[摂南大学土木会] 平成18年度 決算書

■研究室紹介:環境水工学研究室

■教室だより

■理事長挨拶

坂口 正雄 (学校法人大阪工大摂南大学 理事長)

「技術者教育とこれからの学園」

■就職状況

本年度の就職状況

■事務スタッフ紹介

■準会員のページ

勉強にも クラブにも熱中!

■卒業生から近況報告



会長の挨拶

就任のごあいさつ



会長 森 俊介 (撰大昭和55年卒)

報徳学園中学校・高等学校教諭

土木会会員の皆様にはご健勝で、各方面で活躍のこととお喜び申し上げます。

この度の役員改選にあたり、橋本梯造会長の後任として推挙され、撰南大学土木会の第六代目会長を引き受けることになりました。

これまでの歴代会長には学内で活躍の先生方に勤めていただき、困難な創設期から長期・安定期に至るまで立派な土木会に発展させていただきました。その跡をうけて、高専卒業生である橋本前会長にバトンが引き継がれ、正直言って高専の先輩方にもうしばらく会長職をお引き受けいただきたかったのですが、大学卒業生のまだまだ若輩者の私が会長に就任することになり、身の引き締まる思いです。新たな土木会の発展のために一生懸命がんばりたいと思いますので、会員皆様のご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

土木会の組織構成は、橋本前会長には相談役としてご指導を頂き、副会長に殿村氏(高

専43年)藤田氏(大学55年)代表幹事には新井氏(大学60年)副代表幹事に城野氏(高専50年)をお願いし、常任委員も新メンバーがわり、会報・名簿・ウェブページ等の分担を決め仕事の合間を縫ってボランティア精神でがんばっていただいています。

同窓会活動は、絶対に無くてはならないものではないかもしれませんが、自分が学んだ学舎・仲間・恩師がいればこそ、現在の私たちがあります。『人の道はものを作り、育て、実りを蓄え、譲り残す道。人は努力しなければ止まります。争い、闘い、奪い合うのが動物で、助け合い譲り合うのが人』会員同士がこのような関係で同窓会(土木会)活動が出来るように思います。

今年には総会・懇親会が行われます。是非とも多くの会員にご参加いただき、交流・懇親を深められますことをお願い申し上げます。当日会場でお会いできることを楽しみにしております。

ご案内

撰大土木会

平成19年度 総会・懇親パーティ

2年に1度の総会と懇親パーティを開催いたします。なお、当日は、津堂城山太鼓保存会による和太鼓の演奏を予定しております。

■とき 平成19年12月1日(土)

午後 1:45～2:45 (1243教室)
特別講演「アウトサイダーが歩いた土木の世界」
(株)浪速技研コンサルタント
取締役社長 長江 哲生 先生

午後 2:50～3:20 (1243教室)
平成19年度総会

午後 3:30～5:30 (11号館11F スカイラウンジ)
懇親パーティ

■ところ 撰南大学寝屋川学舎
(1243教室、第5会議室)

寝屋川市池田中町17-8 ☎072-839-9117
都市環境システム工学科共通準備室

■会費 3,000円

準会員(学生)向けの講演

午前 10:30～11:30 (1242教室)
「夢を現実に - 甲子園への道 -」
如水館高等学校 教諭 宮崎 守 先生
(本学C科 平成1年3月卒)

[撰南大学土木会] 平成18年度 決算書・平成19年度 予算書

平成十八年度決算は表1のとおりであり、監査を経て、平成十九年五月の役員会で収支とも相違ないことが認められた。また、平成十九年度予算は表2に示すとおりである。支出の部では、本年度は総会が開催されるため、総会費が計上されている。

表1. 平成18年度決算

収入の部		
科目	予算	決算
前年度繰越金	710,582	710,582
正会員入会金 117名	585,000	585,000
準会員会費 67名	480,000	334,300
広告料	300,000	238,430
預金利息	100	51,477
名簿売上	30,000	2,900
雑収入	0	8,000
合計金額	2,105,682	1,930,689
支出の部		
科目	予算	決算
事務費等	200,000	77,795
名簿追加修正費	100,000	50,000
会報発行費	1,000,000	835,570
同窓会補助	150,000	0
役員会・評議員会費	100,000	111,190
特別講演会	250,000	0
慶弔費・見舞金	200,000	84,948
雑費	50,000	30,000
予備費	55,682	0
次年度繰越金	0	741,186
合計金額	2,105,682	1,930,689

平成19年3月31日現在 特別積立金440万円

表2. 平成19年度予算

収入の部	
科目	予算
前年度繰越金	741,186
正会員入会金 87名	435,000
広告料	240,000
預金利息	46,510
名簿売上	3,000
合計金額	1,465,696
支出の部	
科目	予算
事務費等	40,000
総会費	300,000
名簿追加修正費	20,000
会報発行費	810,000
同窓会補助	30,000
役員会・評議員会費	30,000
特別講演会	150,000
慶弔費・見舞金	80,000
雑費	5,696
合計金額	1,465,696

平成19年4月1日現在 特別積立金440万円

研究室紹介

環境水工学研究室

都市環境システム工学科 准教授

瀬良 昌憲



本年4月からC科に着任することになりました瀬良昌憲(せらまさのり)です。会員の皆様、よろしくお願ひ申し上げます。慣れない環境と前期の授業に追われて未だ研究室の体制を十分に整えることが出来ておりません。このため、ここでは私の経歴と4年生の卒業研究の概要などについて紹介させていただきます。

私の前職は同じ学校法人内の大阪工業大学短期大学部土木工学科でした。ところが、時代の流れには逆らえず、昨年9月末で閉校となりました。そのため、縁あってC科への移動となりました。正式な着任に先駆けて、理事長付助教という肩書きのまま、昨年10月から3号館4階に研究室を設けていただきました。

さて、私の経歴ですが、私は日本大学理工学部土木工学科を昭和51年に卒業し、大学院修士課程を昭和53年に修了しました。修論のテーマは薄板構造の有限要素法解析でした。そして、大阪大学の故前田幸雄先生の研究室にて研究生および大学院博士課程学生として鋼床版の疲労の実験的研究に4年半取り組みました。その時の卒研生と交代で疲労亀裂の観察を1ヶ月ほど続け睡眠不足から鋼床版の疲労限界よりもこちらの身体の疲労限界の方が先になりそうでした。その後、神戸大学工学部土木工学科へ助手として採用され教師生活が始まりました。神戸大学では現地観測に基づく河川流の乱流構造に関する研究に取り組むこととなり、構造から水工学へと研究内容は一変しました。後に、ここでの研究成果が博士論文になりました。神戸大学に15年半在籍した後、大阪工業大学短期大学部土木工学科に8年半在籍し、現在に至っています。

次に、卒業研究の方ですが、今年から新たに始めた研究で、マイクロバブル(微細気泡)の実験的研究に取り組んでいます。マイクロバブルとは直径0.01~0.003mm以下の微細気泡のことであり、一般的な直径数mm程度の気泡とは物理的性質も化学的性質も異なります。その性質のひとつである生物活性作用に注目して、マイクロバブルの溶解した水を用いて、魚類や植物の

生育に対する効果を実験的に検討しています。写真は淡水魚(タナゴ)を条件の異なる環境で飼育して比較している様子です。将来的には、このマイクロバブルを活用して河川水の浄化へ応用したいと考えています。



教室だより

今年度、都市環境システム工学科には、1年次95名(2名)、2年次96名(8名)、3年次97名(6名)、4年次84名(4名)で合計372名(20名)の学生が学んでいます。大学院の社会開発工学専攻における都市環境システム工学科出身者は、1年次に6名、2年次に9名(2名)、合計15名です。なお、括弧内の数値は女子学生数を示します。

一方、教職員は専任12名、非常勤講師16名、事務スタッフ3名で、総勢31名の陣容で教育・研究の指導に当たっています。

都市環境システム工学教室の近況は次のとおりです。

- ①昨年度に引き続き、澤井健二教授が学科長の任に当たっています。
- ②大阪工業大学短期大学部より瀬良昌憲准教授が着任されました。
- ③来年度卒業見込み84名は、徐々に就職先の内定を得るようになっております。
- ④教室では、今年度、いよいよJABEE(日本技術者教育認定機構)の認定審査を受審します。卒業生の皆様のご協力をお願いできれば幸いです。

(熊野記)

慶弔のお知らせ

土木会に訃報の連絡が入りましたので、ここに、謹んでお知らせいたします。心よりご冥福をお祈りいたします。

柴田 正樹 氏(摂大 昭和54年3月卒)
(旧姓:寺村)

高居 和行 氏(摂大 平成2年3月卒)



学科長挨拶

いよいよ迎えたJABEE受審

都市環境システム工学科 教授 澤井健二

摂土会の皆様には平素から何かと本学科の運営にご支援を賜り、ありがとうございます。

本学科でもJABEEの受審です。これは、何と言ってもJABEEの受審です。これは、2002年の学科再編当初から、5年間にわたって継続的に積み上げてきた連年の教育改革の集大成ともいべき大きな山場です。早くから私達は2007年度をターゲットとして、学習教育目標の設定、カリキュラムの見直し、教育体制の見直しを推進してきました。昨年度はその成果を踏まえ、2006年版の自己点検書を作成し、学科外(学外も含む)の数名の方に見ていただいてコメントをいただき、さらに改善を加えた上で、今年の7月に2007年版自己点検書を作成させ、JABEEに提出いたしました。11月に行われる実地審査を含めて首尾よく審査をパスすれば、来年度の早い時期に認定公表されることとなります。しかし、それで教育改善が終わるわけではなく、私達は継続的改善を進めていくことを内外に宣言したわけですから、むしろこれが一層重要なものかもしれません。

一方、少子化に加えて、理科離れや開発嫌いの社会動向は今後も当分続くことが予想され、われわれはそのなかで生き残っていくかを模索せねばなりません。そこでも、当面の方向性としては、私達の学科の名称にもなっている、「都市環境」とは再生や「地域連携」の推進により大きな努力を集中していきたいと考えています。「都市環境の再生」では、学内ビオトープの整備、寝屋川市駅前の親水公園(寝屋川せせらぎ公園)整備、屋上緑化の実践、再生骨材の有効活用、公共施設の景観デザインなどにその具体的成果が上がりつつありますが、これらを本学科の大きな特色のひとつとして、内外にPRしていきたいと考えています。

また、地域連携は、昨年できた全学の地域連携センターの月例セミナーや工学部講演会、また、祭など、種々の機会をとらえて進めましたが、まだまだ締らなさは残る感じがぬぐえませんが、皆様のより一層のご理解とご支援をお願いいたします。

なお、昨有楽町に開設された、学園の「東京センター」は今年の7月に閉鎖され、以前からあった戸越セミナーハウスで業務が継続されています。それに代わって、9月からは梅田に「大阪センター」が開設されていますので、ご利用いただくと幸いです。

故 執行龍騎君を偲んで

金本 拓也

(都市環境システム工学科1年生)



平成19年5月30日
交通事故で、執行君が突如として天国に旅立たれました。事故は大卒の授業が終わって帰宅途中のことであり、少し前まで執行君と同じ授業を受けていた私にとって信じられない話でありました。お互い本年4月に摂南大学に入学したばかりで、それほど長い付き合いがあった訳ではありませんが、何かの縁で私が執行君の追悼文を書くことになりました。

最初、私が彼と出会ったときは髪も茶髪で、近寄りにくい人かた、と思っていました。執行君から私に話しかけて来てくれたので、とても打ち解けて来てくれたので、全く最初印象とは違っていました。授業中とはとても真面目に先生の話を聞いていて、小テストなどでも本人は「勉強していない」と言っていたながらも、しっかりとよい点数を取っていました。日常会話の中でも、しっかりと自分の考えを持っていたし、話をすればするほど面白いのある人だな、と思っていました。また、友達も多くて人に好かれる性格の人だな、と言うことも分かってきました。4年間の大学生活を共に過ご

していただければ、多分、卒業後も親交を深める友人の一人になっていた、と思っています。

先日、平城先生と一緒に彼の家へお参りに行ってみました。そのときのお母さんの話から執行君の私が知り得なかった人柄を垣間見ることができましたので、ここに聞いた話を数点紹介させていただきます。

- ①今、私たちは多くの人々と出会い、励ましの言葉を受けて、亡き息子から元気をもらっています。
- ②3人兄弟の末っ子で、多少、我がままでやんちゃなところが目につけていました。周囲の人に気を配り、人を和ませながら、いつも自分のことを、番好き、と思っていたようでした。
- ③18年間と言う短い人生でありましたが、彼にとって充実した生活を過ごしていたようにも思っています。
- ④残された家族が明るく生きていくことが彼の供養であると考えています、とおっしゃっていたことが強く印象に残っています。

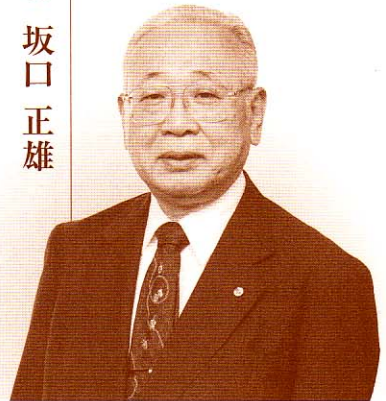
最後に、執行君、安らかにお休みください。ご冥福をお祈りいたします。
合掌

技術者教育と

これからの学園

学校法人大阪工大摂南大学 理事長

坂口 正雄



摂南大学土木会員の皆様におかれましては、各方面でますます活躍のこととお慶び申し上げます。平素より本学園ならびに摂南大学にご支援を賜り感謝いたしております。

本会の前身・大阪高専土木会は1964年に発足し、1979年に摂南大学土木工学科の第1期卒業生受け入れと同時に現在の名称にされました。「摂南大学土木会」発足時の会員数は高専902人、摂大79人、計981人と記録にあります。爾来、連綿と受け継がれてきた活動が、こんちの隆盛を導いたものであり、深く敬意を表します。

本学園では建学の精神にある「理論に裏付けられた実践的技術を持ち、現場で活躍できる専門職業人の育成」を実践するため、2022年の創立100周年に向けた基本構想「これからの学園」を策定し、「ユニバーサル社会を創造するプロフェッショナルな人材を輩出し社会評価を得ることとリーディングポジションを獲得する」という目標を定めました。そこで、学生と保護者、卒業生、

教職員の四者を一つの家族としてとらえ運営していく「四位一体」のスロウガンを掲げています。この目的は四者がただ単に結び付くということではなく、そのきずなを保つことで社会と学園の発展を目指すことにあります。皆様も学園の家族の一員です。今後もこれまでと変わらぬご支援を賜り、共に歩みたく存じます。

摂南大学では今後、都市環境システム(土木)工学分野をはじめとする多様な学術分野の研究活動でも飛躍を目指します。具体的には、まず2008年4月、工学部を基礎とする大学院工学研究科に博士課程を置きます。続いて、競争的環境にあるもの、グローバルCOEなどの外部資金の獲得を目指して研究活動の活性化を図ります。そして学部教育にこれらをフィードバックし、次代の大学づくりにまい進してまいります。

末筆となりましたが今後とも、母校への変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。また、会員の皆様のご活躍をお祈りいたします。

■ 事務スタッフ紹介

● 宮崎 紫帆

本年度、私、宮崎紫帆と小林俊之君が新しく事務スタッフとなりました。小林君は、大阪工業大学建築学科の3年生です。

私は、元々、他大学にて事務経験はありましたが、そこでの業務と違い、講義の準備での機材操作や、実験関係の道具・商品名等、わからないことが多く、まだまだ戸惑うことばかりです。しかし、周囲の方々に助けて頂きながら何とか前期を終えることができました。

現時点での摂南大学の印象は、教職員の方々の垣根が低く、皆さん「挨拶」をしっかりとされていることに非常に好感をもちます。また、学生・保護者の方々に対するきめ細やかな配慮にも驚きました。その分、先生方の多忙さは半端なものではないと実感しています。

そんな先生方をはじめ、学生の皆さん、そしてOB・OGの方々のお力に少しでもなれるようにと思っていますので、宜しくお願い致します。また、ご助言等もございましたらお気軽にお願い致します。



宮崎 紫帆 小林 俊之

就職状況

本年度の就職状況

都市環境システム工学科 教授 矢村 潔

多少の紆余曲折はあるものの昨今の比較的安定した経済情勢に加えて、いわゆる困塊の世代の退職問題もあつて、今年度の学生の就職環境は、かなり明るいものがあります。

本年度の学生の就職に関する指導、支援業務は、梶川教授と私、矢村が担当しております。来年度卒業予定者は、学部84名、大学院9名で、内、学部65名(77%)程度、大学院全員が行き先を決定ないし確保している状況で、昨年より幾分高い値になっています。一方、求人も昨年同時期より10%程度多い340件程度となつています。このように本学科の就職状況も数字の上からは比較的好調に推移しています。このような状況の中で感じたことについて2・3触れてみたいと思います。

まず、就職活動の時期が非常に早くなつてきていることがあげられます。従来、比較的ゆつくりしていた大手・中堅ゼネコンでも2月半ばあたりから企業説明会等の求人活動を開始してきました。このような状況では、3年生の後期には、意識・精神面を含めて本格的な就職活動の準備に入る必要があります。この時期には、重要な基本科目の講義も数多くあることを考え合わせると、学生諸君にさらなる緊張感、集中力を期待すると共に、より効率的な指導体制を構築していく必要性を痛感しています。

次に、企業側の求人意欲が旺盛な中で選考は極めて厳しいという事実です。建設業界では、昨今特に仕事が増えているという状況ではなく、いわゆる不良債権の処理、業界の再編が進んだ中で、困塊の世代の退職と相まって採用のゆとりが出てきたというのが実状で、「いい人材」があれば採用しておこうという

が本音のようです。さらに、技術の継承の必要性もあつて「いい人材」の争奪戦が求人意欲となつて表れているようです。ここで「いい人材」の判断基準として、基礎学力、人間力と合わせて志望動機が重要視されているようです。

最後に、最近の本学科の学生の志望先についてですが、いわゆるゼネコンを中心とした土木系分野が敬遠される傾向にあり、代わつて不動産、住宅産業界等の希望が増えています。これは、土木業界のマイナーイメージ、選考の厳しさ等に加えて、学生の意識の多様化が原因と考えられます。卒業生が広い範囲に進出し、活躍してくれることは、大いに喜ばしいことですが、私達の教育システムの主軸はやはり「土木系」であることを考えるとすこし寂しい気もします。

いずれにせよ、「全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成すること」という本学の教育理念のもと、早い時期から自分の将来を見据えて自らを鍛えていける教育システムの構築が重要となつてきています。会員の皆様方のご指導・ご支援をお願いいたします。



「課外活動と勉学の両立」で成功している学生を紹介します

勉強にも クラブにも 熱中!

◎都市環境システム工学科(1回生) 影林 義賢



「Eコマース部」所属

近年、水質汚染が環境問題のひとつとして騒がれていること、また、私自身が高校で川や水辺に関する活動を行っていたため、Eコマース部の存在を知ったとき「これだ!」と思い、入部しました。

最初、私は控えめな性格と入学してだったこともあり、自主的な行動を敬遠していましたが、あるとき部の活動中に、「黙って見ているだけじゃあかん。もっと自分から動かな」と言われ、「このままじゃダメだ」と思い直し、自主的な行動を心掛けるようになりました。Eコマース部に入ったことで強く印象に残ったことは、様々な人とのつながりがあるということです。この部では、部員以外に顧問の先生や、そのゼミの方々とも活動を共にすることが多く、ためになる話や様々な知識を得ることができます。また、イベントに参加する等の活動を通して、自主的に動く事の難しさとその大切さを知りました。部の活動は、休日に催されるイベントに参加することが多いため、勉強する時間や自分の自由な時間がなくなりがちです。しかし、現地に行き直接見聞することで、自分の見聞や世界を広げることができます。

机に向かう勉強も大切ですが、こういった社会学習もそれに負けないくらい大切なことだと思います。

Eコマース部の活動の中で、自分を見つめ直したことで前向きになれたし、いろいろな事も経験でき、とても感謝しています。これからも勉強と部活に励み、有意義な大学生活を過ごしていきたいです。



「水泳部」所属



◎都市環境システム工学科(3回生) 福井 辰哉



私は水泳部に所属していますが、水泳の練習は1日に何キロも泳ぐため、日頃から体力・筋力に気を配っておかなければ練習についていけません。そのため私は毎日、日付が変わるかわらないくらいに時間に眠り、朝は練習のために早く起き、朝練を行ってから大学の授業を受けるという一定のリズムで過ごすようになりました。そのような生活を過ごしてきたお陰で授業には遅刻や欠席をすることなく出席でき、学業と部活動を両立させることができました。私は以前「目標は人生を充実させ、価値のある人生をもたらす」という文章を本で読んだことがあったのですが、私は部活動を通してまさにこの言葉の意味を実感することができました。今年の夏では部活動を引退したのですが、私には50メートル自由形、400メートルフリーリレーで決勝に残り、入賞するという目標がありました。結局その目標は達成できなかったのですが、気持ちよく目的に向かい打ち込めました。このことが充実した学生生活を送ることに繋がったと思います。また、学園祭やOB会、他大学との交流、体育会本部での活動など、部活動をしていなければ経験できなかった事も数多く経験できました。もちろん、部活をしていてもいいことばかりではありません。練習や試合だけでなく、実験レポートの提出やテスト等で忙しく、しんどかったことや、部活内で他の部員と意見の食い違いもありました。しかしそういった問題を解決していくことがいい経験になり、自分に足りなかった意識や行動に気づくことができました。また、苦しみを乗り越えたということが今の私の自信に繋がっているのではないかと思います。

水泳部として、その本格的な活動は今年の夏で終わってしまいましたが、部活動を通して得た仲間や経験を大切に、将来に向けて目標を持ち、残りの学生生活を送っていききたいと思います。

「サッカー部」所属



◎都市環境システム工学科(4回生) 神前 知佳

もともと、高校生の頃から将来は、ものを作る仕事に就きたいという夢があったので、私はこの都市環境システム工学科に入学しました。そして、中学校・高校ではクラブ活動をしていなかったため、「大学では何かやってみよう」と思い、友達に誘われサッカー部のマネージャーをすることになりました。中学・高校と女子高育ちの私には、男子校みたいなクラスや部活動での上下関係というものはどれも初めてづくしで、1回生の頃は毎日戸惑いながらも刺激の多い毎日を過ごしていました。そして、1番大変だったのがクラブ活動と学業との両立でした。2回生になると勉強も専門分野が多くなり、難しくなりました。サッカー部ではマネージャーとして慣れてきた頃で、任される仕事も多くなり、それがうれしくて部活動中心の生活を送っていました。その結果、自分の思うように単位が取れず大変な状況になってしまい、とても悩みました。そして3回生になってからは、「これまでの私ではダメだ!」と思い、一生懸命、勉強しました。“両立させる”ということの難しさを知り、今までの中学・高校生の頃とは違い、大学では好きなことだけしてはいけない、ということを知られました。私の場合、部活動をするにより学業に支障が出るというデメリットな部分も経験しましたが、何事もバランスよくこなしていく大切さを、身をもって知ることができました。また、上下関係や、協調性を学べるというメリットもあります。就職活動の際には、自分の学生生活を胸を張って言うことができました。卒業後の就職先も高校時代からの夢であった業種の企業に決まりました。社会人になっても、部活動で学んだ上下関係や協調性を活かしてがんばりたいです。今から卒業後の生活を楽しみにしています。あと半年もすれば卒業ですが、卒業研究やゼミ生との思い出作りのためのゼミ旅行、部活動では、私の学生生活最後の大会ももうすぐ始まります。まだまだやりたいこと、やるべきことはたくさんあるので、残りの学生生活を悔いのないよう全力で過ごしていきたいです。



◎都市環境システム工学科(4回生) 毛戸 久仁



「杖道部」所属

私は、体力や精神力を付けたい、今まであまりやったことのない武道をやってみようと思い、今まで聞いたことなかった「杖道」という武道にとても興味を持ったので杖道部に入部しました。部活をやっていく上で、メリットだけでなく、デメリットもあるため、学業と部活動を両立させることは困難でした。まずメリットは、武道系の部活であったこともあり、上下関係に加え、礼儀作法など、社会に出て必ず役に立つことを学ぶことが出来たということです。杖道部では、週に1回学外から先生をお招きして稽古をつけていただくなど、練習環境はとても充実しています。また、学生が企画する大会などもありました。体力・精神力はもちろん、互いに意見を出し合い企画する過程で協調性などが身につきました。デメリットはやはり限られた時間の問題です。最初は学業と部活動の両立は簡単だと思っていましたが、学年を経るごとに意外と難しいことだと実感しました。入部したての頃は学業も部活動も楽しく感じましたが、徐々に自由に使える時間が少なくなっていく、両立させることが難しく思えてきました。平日は練習、休日は試合と、プライベートの時間が少なく、学業に費やす時間も減っていき、そこで、無駄な時間を作ることなく学業と部活動を両立させることができるように、しっかりとスケジュール管理をするようにしました。その結果、1日の行動やその月の予定を頭の中で考えるだけでなく、手帳などを使いきっちり予定を立て、その通りに行動することができるようになり、より充実した大学生活を送ることができました。



私は今後、大学院に進学し、将来は橋梁系の職に就きたいと思っています。社会に出てからもこの大学生活で学んだこと、体験したことを活かし、楽しく充実した日々を送っていききたいと思います。

僕たちが
取材しました!



編集後記:このページは学生である私たちが作成したものです。会報企画は、OBの方々や先生方が主体で作成されていましたが、学生の視点に立った意見も取り入れ、「もっと幅広い世代に会報誌を見てもらいたい」という願いから始まり、昨年に引き続き今年も一部分が学生が受け持つことになりました。内容の作成にあたり、多くのことで苦労しましたが、先生方、学部生のご協力を得て納得のいくものが出来上がったと思います。この場を借りてお礼申し上げます。これから先も、次の世代の学生たちがこのページを作り上げていくわけですが、私たちが作ったものを礎に、より良いものへと発展させていってくれることを切に願っております。

準会員のページ製作委員 山川 稔平/荒田 敏裕/浦山 智裕/毛戸 久仁(写真左より並び順)



卒業生から 近況報告

コンプライアンスと健康

清水建設(株)
関西事業本部 大阪支店 土木部

足立 博成 (高専昭和50年卒)



清水建設に入社して32年になります。海工事と橋梁上部工以外はほぼ経験しています。中でも高速道路(旧JH)に携わ

ることが多く平成13年から平成16年の4年間で第二名神(土山工区)では300万mの切盛土工を行った経験は非常に貴重なものになっています。

現在(平成19年8月)は新日鐵堺で突貫工事の造成工事を行っています。ここでは40日で80万mの切盛土工を行っています。

最近では低入札で工期も非常に厳しいことです。公共工事では予算の中には休日も含まれている事を御存知でしょうか。しかし、契約工期に着工できず無駄な日々が過ぎていく経験は皆さんにもご経験があると思います。

現在各企業が置かれている状況は皆さん良くご存知のコンプライアンスの遵守でしょう。当社でも社内規範を決めてラインの強化に努めています。残るには大きな代償を支払う覚悟で時代の流れに乗ったのだと思います。しかし、その代償の大きさを信頼を取り戻すには非常に時間と努力が必要で全社を挙げて取り組んでいます。

最後に《心身の健康》これに気をつかってください。それに伴い元氣、本氣、根氣、勇氣、といったものが備わり。それぞれが、仕事に対する意欲となり、また心の健康にも繋がると信じています。

第二京阪道路

国土交通省 近畿地方整備局
浪速国道事務所 工務第一課長

今西 秀樹 (摂大昭和61年卒)



建設省に入省してから早や20年余りになります。その間、事務所、本局、本省と計11回の転勤があり、一昨年度から現職に就いています。

現在勤務している事務所は、枚方市南中振にあり本大学に近く、第二京阪道路、第二阪和国道、清滝道路の改築事業を行っています。

その中で私が担当している事業が第二京阪道路です。第二京阪道路は、巨椋池ICから近畿自動車道(門真JCT)間約27・4kmの道路として一般有料道路の第二京阪道路(自動車専用道路(六車線))と京都南道路、大阪北道路(一般道路(二、四車線))で構成し、国土交通省と西日本高速道路(株)が合同で事業を進めています。当道路は、昭和44年に都市計画決定され、関係市域毎に平成元年〜4年にかけて自動車専用道路と環境施設帯を設けた都計変更を経て、平成15年に巨椋池ICから枚方東間10・6kmを供用しています。現在、残区間の平成22年春を供用目標に工事を進めています。当初の都計決定から40年近くを経てようやく全線供用が見えてきました。既に橋梁下部や改良に係る工事は全て発注しており、今年度中に上部工事にも着手していきます。工事現場は大学にも近いので、ぜひ進捗状況を見に来てください。

環境Gメンを目指して

(株)環境総合テクノス 土木部
土壌・地下水対策グループリーダー

八木 理至 (摂大平成9年卒)



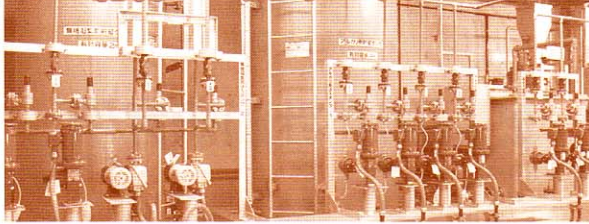
私が平成9年に大学を卒業し、社会人の道を歩み始めて早10年が経ちました。私は卒業と同時に関電興業(株)に入社しました。

会社が関西電力グループの企業であったことから、主に電源開発および発電所に関連した建設や地質調査工事に携わってきました。

その後、平成16年10月にグループ企業の再編に伴って、(株)環境総合テクノスに社名が変更となり、現在は土木部の土壌・地下水対策グループに所属し、主に官公庁や不動産会社、ゼネコン等から受注した土壌ならびに地下水汚染調査を担当しています。土壌・地下水汚染問題は近年顕在化してきており、環境意識が高まる中、地味でありながらもスポットライトのあたる業務です。土壌・地下水汚染調査に関しては、調査方法の立案から実施および対策方法まで細かく法律で定められており、土地売買においても汚染の有無によって土地の評価額が左右されるなど非常に重要な位置を占めています。また、建設工事において発生する搬出土壌や埋め戻し土壌についても取扱指針等が制定されるなど、一般土木工事においても環境保全は無視できない状況となってきました。

よりよい環境を後世に遺していくためにも、土木技術者が果たすべき役割は大きいと思います。今後は、建設関係のみならず環境関係の資格取得にも幅広く挑戦し、土木分野における環境Gメンを目指していきたいと思っています。

さわやかな環境を創造する
水の総合コンサルタント



株式会社 都市建設コンサルタント

建設コンサルタント・一級建築士事務所・測量業 登録

本社: 〒551-0003 大阪市大正区千島1丁目14番13号

代表取締役: 津田 勉

営業所: 神戸・岡山・奈良・和歌山・大分



建設コンサルタント・補償コンサルタント・情報測量・情報管理
大島技術コンサルタント株式会社

本社 岡山県真庭市藤山上福田829-1
〒717-0602 ひるぜん TEL 0867-66-3673(代)
FAX 0867-66-3674

URL: <http://www.ogcfight.co.jp>



事業領域は、地球です。



地球と、ずっと。
国際航業株式会社
<http://www.eartheon.co.jp>

大阪支店 / 〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目5番2号

TEL 06-6343-6981 FAX 06-6343-6980

西日本支社 / 〒560-0805 兵庫県尼崎市西長洲町1丁目1番15号

関西技術所 TEL 06-6487-1111(代表) FAX 06-6487-1300(代表)

快適な
国土をデザインする



株式会社 修成建設コンサルタント

ISO 9001 登録番号 JMAQA-143

代表取締役社長 菅原 武之

本社 / 〒553-0002 大阪市福島区藤島2丁目5番15号
TEL 06-6452-1081(代表) FAX 06-6453-0777
事務所 / 兵庫・京都・名古屋・和歌山・岡山・奈良・姫路

- (卒業生)
- 加賀健二 (高専土木S44年卒)
 - 吉澤慶文 (高専土木S50年卒)
 - 徳久仁志 (高専土木S54年卒)
 - 小東宏光 (摂大H4年卒)
 - 藤原基亨 (摂大H7年卒)
 - 水谷 晋 (摂大H8年卒)



株式会社 近代設計

21世紀を担う近代設計の高技術
自然環境と調和した豊かな近未来をめざす
コンサルティングエンジニア

橋梁・共同溝・道路・新交通・トンネル・下水道
(調査・計画・設計・研究・及び施工管理)

本社 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-9-16
Tel. (03)3255-8961(代) Fax. (03)3251-3783
大阪支社 〒541-0048 大阪市中央区瓦町 3-1-4
(トーア紡ビル3F)
Tel. (06)6228-3222(代) Fax. (06)6228-3221

大阪市内より30分圏内の
緑豊かなお墓地をご案内いたします。
お墓のことならどんな事でもお気軽におたずね下さい。
お墓の相談コーナー ☎0120(305075)

(株) 太田石材店



本社 大阪市城東区古市1丁目23番20号
TEL 06-6930-5075

当社推奨霊園

- 総持寺霊園(茨木市)
- 隆国寺墓地(吹田市)
- 海印寺墓地(長岡京市)
- 王寺霊園(奈良県)
- 東本願寺天満別院(北区)
- 北拱霊園(豊能郡)
- 真龍寺霊園(茨木市)
- 服部徳風墓地(豊中市)
- 竜の子霊園(奈良県)
- 玉手山墓苑(柏原市)
- 飯盛霊園(四條畷市)
- その他公営墓地

HC 21世紀をグローバルに拓く

株式会社 花村コンサルタント

業者登録

- 建設コンサルタント業 第8662号
- 地質調査業 第1760号
- 測量業 第14744号
- 土壤汚染指定調査機関 環2003-2-30

代表取締役 花村 浩司 (高専C昭和47年卒)

本社 〒611-0042 京都府宇治市小倉町南浦 9-8
TEL (0774) 21-5067 FAX (0774) 21-5068
大阪事務所 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 新谷町第三314
TEL (06) 6764-7438 FAX (06) 6764-7439

社会に貢献するものづくり企業

一般土木工事・建築外構工事・エクステリア工事・造園工事



西建土木株式会社

NISHIKEN

代表取締役 西山 賢浩 (摂大S61年卒)

〒661-0033 兵庫県尼崎市南武庫之荘8丁目32番7号

TEL: 06-6438-6005 FAX: 06-6438-5222

E-mail: nishiken@jasmine.ocn.ne.jp

『土木会』と『会員(正・準)』との双方向の情報交換ならびに共有に、摂南大学土木会のホームページを活用しましょう。
会報(バックナンバー)のCD-ROMを無料配布もしています。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.geocities.jp/setsudokai/>

摂南大学土木会は都市環境システム工学科のJABEE受審を全面的に支援しています。